

ICTサービス安心・安全研究会

青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース（第4回）

1 日時 平成28年12月15日（木）10:00～12:00

2 場所 総務省 地下2階講堂

3 出席者（敬称略）

○構成員

中村主査、浅井構成員、上沼構成員、宇津木構成員、尾花構成員、岸原構成員、森構成員
（欠席：曾我部主査代理、尾上構成員（代理として（一社）安心ネットづくり促進協議会事務局の白戸氏が出席））

○オブザーバー

株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、（一社）全国携帯電話販売代理店協会、（一社）テレコムサービス協会、（一社）電気通信事業者協会、（一財）マルチメディア振興センター、内閣府、文部科学省

○ゲストスピーカー

坂元氏（フィルタリング利用促進検討会座長（お茶の水女子大学教授））、安江氏（フィルタリング利用促進検討会事務局（株式会社三菱総合研究所））

○総務省

富永総合通信基盤局長、竹村事業政策課長、徳光消費者行政第一課長、湯本消費者行政第二課長、寺本消費者行政第二課課長補佐

4 議事

（1）開会

（2）議題

① 「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する論点とその解決に向けた方向性」を受けた取組について

② 自由討議

（3）閉会

5 議事要旨

◎議題

- ① 「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する論点とその解決に向けた方向性」を受けた取組について
- ・事務局から資料4-1「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する論点とその解決に向けた方向性」及び参考資料について説明
 - ・坂元氏から資料4-2「フィルタリング利用促進検討会の概要」について説明（安江氏から資料4-3「フィルタリング利用促進検討会 報告書（概要）」について補足説明）
 - ・（一社）電気通信事業者協会から資料4-4「『フィルタリング利用促進検討会』をうけての事業者（TCA）の取組みについて」について説明
 - ・（一社）モバイルコンテンツ審査・運用監視機構から資料4-5「EMAの新たな取組みに関して」について説明
 - ・（一社）安心ネットづくり促進協議会から資料4-6「2016年度青少年ネット環境整備タスクフォース関連取組み」について説明
 - ・（一財）マルチメディア振興センターから資料4-7「青少年インターネット環境整備におけるFMMCの取組」について説明

② 自由討議

【尾花構成員】

いくつか確認させていただきたい。まず、新モードについて、学割とペアにすることを検討できないだろうか。具体的には、18歳未満が使用する携帯電話やスマートフォンの販売時、新モードも解除するのであれば学割の適用不可というような仕組みができないか。また、それを実施した場合に、次は、MVNO事業者が追随していただけるのかどうか。MVNO事業者の中には、例えばフィルタリングがデフォルトで設定されていないのに、時間制限のようなほかの機能があるために子供向けとして売っているようなものもある。徐々に改善している傾向は感じられるが、せっかく新モードができるのであれば、18歳未満のデフォルトという形で一緒に取り組んでいただけると大変嬉しい。そういう方向で検討することが可能なのかどうかお伺いしたい。

それからもう一つは、「旧モード」、「新モード」という言い方について、「旧モード」というと古いモードのような印象で使いたがらないと思う。よって、例えば「標準モード」

と「上級モード」といったように、利用者ができれば標準的なものを使うというような表示体系を考えていただきたい。

逆に大変良いことだと思ったのは、全キャリアが統一したフィルタリングの名称を使うということ。こういった取組については、MVNO事業者も含めて今後ますますやっていただきたい。

【松井オブザーバー（(一社)電気通信事業者協会）】

まず、名称については、資料では便宜的に「新モード」、従来のモードを「旧モード」と説明したところ、具体的な名称については、今後の検討事項である。ただ、お客様に対して「旧」と「新」というような言い方をすることは基本ない。ご指摘のとおり、「旧モード」というと、古くさいフィルタリングというようなイメージになると思う。そこは今も小学校、中学校、高校というモードがある中で、さらにリテラシーが高く、SNSが利用できないぐらいだったらフィルタリングは不要と言う方に対しては、「高校生プラス」というような名称のフィルタリングを基本的には考えている。

学割との関連については、前回のタスクフォースでも少し関連するご質問があり、趣旨としては理解しているものの、すぐには難しいといったコメントをさせていただいた。確かに今回、最低限のフィルタリングモードが新規に追加になるということは、以前との環境の変化だと重々認識はしているが、やはり基本的な法律の考え方として、最終的には保護者がフィルタリングを利用するかどうかを決定する。当然、リスクを重々把握した上で不要であればということになると思うが、その中で料金的なインセンティブをつけることにより、法律との整合性の観点で若干気になる部分はある。そういうフィルタリングに入った方に対しての何かインセンティブをキャリアから与えられるのかということに関しては、継続的には検討したいとは思いますが、今すぐに学割とひもづけてフィルタリングをセットでということに関しては、個人的な感触としてはすぐには難しいのかなという認識。

【尾花構成員】

インセンティブという意味ではなく、18歳未満だから学割もあるが、フィルタリングが必須の年齢であるから最低限新モードの設定も必要ということ。後でフィルタリングを外すかどうかは保護者の責任だが、フィルタリングを設定して渡すのは販売事業者の役割と考えて、ぜひ前向きにご検討いただければ嬉しい。

【上沼構成員】

新モードについて、それで何が制限されるのかが聞いていてよく分からない。新モードの説明をするときに、例えば資料4-1の7ページにあるように、契約時の説明、設定の

複雑化、長時間化がボトルネックのひとつになっていたので、ここを解消したという説明にしたら良いのではないかと思う。というのは、例えばノーガードの方への最低限の保護という説明があったかと思うが、最低限の保護というからには、対象となるサイトが最大のリスクとしてフィルタリング対象とすべきとしているとの評価であるというメッセージを保護者に対して伝えてしまうことになると思う。そのようなリスク判断がされているのであればよいが、そうでないのであれば、そのようなメッセージを発することが本当に良いのかというのは疑問。

また、先ほどSNSはニーズが高いという説明が何回かあったが、例えば資料4-7の11ページにあるように、学校側からの相談として多いのが、児童・生徒による画像投稿となっており、つまり、学校側としては、SNSは問題と思っているということになる。これらを考慮すれば、SNSはニーズが高いとしても、SNSが最低限の保護としてフィルタリングすべきリスクとは判断されていないという意味を有する説明ではなく、「使いやすい、簡単に設定できるフィルタリングが出来たので、まずはこれを設定してください」という説明を行った上で、そのほかのリスクについては普及啓発によって行うというのがよいのではないか。

あと、資料4-3の6ページのアンケートについて気になる点がある。このアンケートが今回の新モードを導入するための基礎となる事実として重要なはずだが、分類の方法が本当にこれでよいのか疑問がある。縦軸、横軸の「スマホのリスクを気にする・気にしない」と「利便性を重視する・重視しない」というのは分かるが、「リスクを気にしない」に分類されている人の説明がなぜ「危険でも自分が対処できる自信がある」という説明になるのかがよく分からない。これは「リスクは気にはしているけれども、自分は大丈夫だと思っている」という話であって、別の評価軸が含まれてしまっており、分類の説明として相当ではないのではないかと思う。

あと、「安全性も確保したい」という人が「リスクを気にする」群の説明とされているが、「安全性も確保したい」という意味は、「利便性を重視するが、その範囲でできるのなら安全性も確保したい」ということではないかと思われるので、どちらかというとな本当は「リスクは気にしない」という分類にされるべきかという気もする。どういう分析でこのような説明になっているのかがよく分からないが、各象限の説明で、「IV」は違和感がないが、「スマホのリスクを気にしない」群の説明において、「利便性を重視しない」群のIIの説明は「リスクを気にしていない」なのに、「利便性を重視する」群のIの説明は「リスクに対処できる自信がある」というのは平仄が合っていない。便利に使いたいので「気にしない」、

便利に使いたいたけれども「気にする」という、そういう分類になるはずだと思うので、このアンケートの説明については、改めて検討していただいた方がよいかと思う。

最後に、フィルタリングの選択肢が増えること自体は良いと思うが、一般論として言うと選択肢が増えれば増えるほどユーザーとしてはどれを選べばよいか分からないという状況になるので、そういう意味でもぜひプリインストール（出荷時の有効化設定）をご検討いただきたい。昨日の安心協の会議でも、全携協から、販売の現場で目の前で親子が喧嘩をするとどうしようもないという話が出ていて、それは本当にそのとおりだと思う。そういう場合、出荷時にフィルタリングが設定されていれば、「お使いいただいて、駄目だったら来てください」という説明の方が、現場としても大変助かるのではないかと思う。

今回、ニーズに考慮したフィルタリングを入れたという説明がされていたが、本当にそうなのであれば、出荷時に設定してそのまま使ってもあまり問題がないはずだと思う。

【治良オブザーバー（(一社) 全国携帯電話販売代理店協会）】

今回の取組について、確かに新モードにより最低限保護するという部分は、我々にとってもフィルタリングの利用率を高めるという意味では1つの方法ということで前向きに取り組んでいきたいと思う。一方、現在、店頭でお客様とスマホの購入に際して、電気通信事業法による、いわゆる重要事項説明等を含めて、しっかり契約が完成するまでに要する時間が大体1時間半から2時間ぐらい。その中でさらにお子様を連れてこられたときに、フィルタリングについて説明をしていくと、それにプラス15分から30分近くかかってしまう。したがって、2時間半というマックスの数字となるが、こうなるとお客様にとっても、店頭で2時間半も費やすというのはかなりの苦痛になる。

我々のショップのスタッフも、それだけの時間、まさに集中して全てをきちっと間違はなく説明するということが課せられているというのは、ある意味で人間技ではないことを要求されている部分もある。そのため、フィルタリングに関してはできるだけ前もって保護者とその利用者、青少年が私はここまでのITリテラシーがあるといった何らかの仕組みをつくっていただいて、その認定証のようなものを店頭を持ってきていただければ、そのグレードにあわせたフィルタリングを設定するといったように、店頭以外のシーンを活用した形で、フィルタリングの設定を促すという取組を少し考えていただけると非常にありがたい。

【松井オブザーバー（(一社) 電気通信事業者協会）】

先ほどいくつか問題提起をいただいたので、感想も含めてコメントさせていただく。まず、プリインストールの話に関しては、当然、我々としてもスマホの中に当初からインス

トールされているというのがベストであると思うし、そこに関しては引き続きOS事業者等の協力をいただきながら、そういうことができる環境というのを目指していきたいというのは全く一致しているところ。

また、新モードに関して、確かに設定が容易なフィルタリングということでお客様に勧めていくというのもあり、そもそも新モードを検討するきっかけになっているのが、前回のタスクフォースにおいてOS機能を活用してそういうことができないかということに対する1つの回答であるので、まさにご指摘いただいたような意味合いのものであるとTCAとして認識している。ただ、ここを強調し過ぎると、新モードだけに流れていくという懸念もあるので、店頭でのお客様へのお勧めの仕方に関しては、先ほど全携協のコメントもあったが、負荷にならないような形で、かつ青少年がインターネットの脅威にさらされないような形というようなバランスをとったものを今後考えていく必要があると思っている。

やり方としてはいろいろあると思うが、例えばある程度リテラシーが高くて、過去もスマホを使っていて、機種変更したお客様やMNPをしたお客様に関しては、最初に既存のフィルタリングを説明して、それが嫌だったら新モードということになると説明時間が2倍になるというような懸念もある。そこはユーザーのそういう性質等を見て、並行して両方のモードを紹介して選択いただくといった工夫をすることで全体的な店頭の負荷というものを下げていきたいと思っている。

いずれにしても、フィルタリングに関してはまだいろいろ検討していく必要があると思うが、フィルタリングだけでこの問題が全て解決できるというような万能のものでないという認識なので、TCAのプレゼンでも説明したような年齢認証のサービスや、リテラシーの強化を複合的に業界全体でやっていくことによって解決していくような問題と考えている。

【浅井構成員】

新幹線の中でゆっくり読ませていただいたので、事務局の整理の仕方や、各団体の思いがよく分かった。特に、フィルタリングの名称の統一については非常にすばらしいと思った。

2つ質問と1つお願いがある。そもそもの話になって申し訳ないが、坂元先生にご説明いただいた検討会において、ウェブ調査とインタビュー調査を実施しているが、この抽出の仕方については、地域性や子供の発達段階によって大分意味が違ってくると思うので、どんな標本の抽出をしたかを教えていただきたい。もう一つは、今議論になったリテラシ

一評価について、これは検討課題ということだが、もしも具体的な話があったようであれば教えていただきたい。

私のお願いは、この場でふさわしいかどうか分からないが、最近、テレビ報道でもスマホ子守とか、ベビーカーに乗っている子供がスマートフォンを触っていて、それに対して保護者はわりと肯定的な意見が一般論として流れている。私自身、年齢を重ねてきて社会から大分ずれてきたかなという意識はあるが、安心協やFMMCにおける保護者啓発の中で、乳幼児を持っている保護者にどうやって啓発するかということもできたらすてきだと思う。

【安江氏（フィルタリング利用促進検討会事務局）】

まず、アンケート調査の抽出については、小学生、中学生、高校生について、男女とスマートフォンのOS、iOSかAndroidかを分けて、それぞれ100人ずつとあるいは50人ずつというふうにサンプリングを行っている。ご存じの方も多いと思うが、小学生や中学生についてそういった数を集めるのは非常に難しいので、地域性についてもなるべく考慮しているが、基本的には回答数が集まることを優先している。まず10万人ぐらいにスクリーニングを行い、当てはまる人の中から学齢、性別、OSの条件に即して回答者を割り付けるという形で、2段階で行っている。要するに答えたい人が勝手に集まってきたという形ではなく、かなり大規模にサンプリングを行った。

【浅井構成員】

それはよく分かるが、例えばこのインタビュー調査では保護者15名とあるが、このあたりはどうか。

【安江氏（フィルタリング利用促進検討会事務局）】

保護者については、子供が中学生でフィルタリングを使っていない保護者と、子供が高校生でフィルタリングを使っておらず、子供がスマートフォンを使っている場合とフィーチャーフォンを使っている場合というふうに3通りに分けて、それぞれについてアンケート会社を通じてリクルーティングしてもらい、かつなるべく職業についても、この分野にあまり詳しくないようにと考慮してやっている。ただ、実施期間や費用の問題があるので5人ずつ×3セットで15人としている。

【坂元氏（フィルタリング利用促進検討会座長）】

リテラシー評価の件については、検討会としては具体的な議論はなく、アイデア段階である。ただ、個人的には期待したいところ。

【森構成員】

先ほど全携協から店頭では人間技ではないことになっているという話があった。別のシーンでということだったので、別のシーンの話をしたいと思う。資料4-3の最後のページについて、学校でフィルタリングを推奨してくれれば、フィルタリングの利用率が上がるのではないだろうかということ半年前からずっと言っており、そのときは根拠がなかったわけだが、学校でやれと言われればやるということがこのように数字上明らかになっている。やはり店頭のシーンよりも学校のシーンの方がはるかに効率的だと言えるのではないか。さらに言うと、全体のフィルタリング利用率が非常に低いということは分かっているわけだが、フィルタリングを推奨・義務化している学校は非常に少ないのもこれまたこの結果で明らかになっていると思う。ステークホルダーの連携については、学校や教育委員会にもご参加いただき、非常に即効性の高い形で、フィルタリングの利用率を上げていくことが非常に重要だと思う。

団体等でも協力する体制はできていると思っていて、先ほどe-ネットキャラバンの説明で、スマートフォンのフィルタリング設定について、保護者や教職員向けの講座をやっているという説明もあったし、あと、もし学校で説明を受けるのも時間がかかるということであれば、例えば学校から父兄に義務化や推奨について説明する、その資料のサンプルをつくれということであれば、つくっていただけるのではないかと思う。いずれかの団体にもつくっていただけると思うし、場合によっては事業者にもつくっていただけると思うので、学校、教育委員会を巻き込んだ形でフィルタリングの利用率を上げていく、ノーガードを減らしていくということは、これからの対策上は必須ではないかと思う。

【中村主査】

今の点で1点相談だが、学校教育の情報化がこれから急速に進んでく。文部科学省でデジタル教科書を制度化するという検討会が開かれていて、先日その結論が出て、制度化に向けておそらく政府として動き出すことになると思うし、プログラミング教育の必修化の方針も国として出たので、学校教育の情報化、来年以降かなり急ピッチになってくるのではないかと思う。それから、超党派の国会議員による教育ICTの議連というのがあり、これは遠藤利明議員が会長を務めているが、今、そちらのほうで教育情報化を推進する基本法案を策定している。その法案の肝は地方自治体が推進計画をつくるということで、その中にも情報リテラシー教育を強化するという項目が明記されているので、もしそれが通れば学校教育の情報化とリテラシー教育というものは一体として進めていく必要が高まってくるのではないかと思う。

この活動とは別に私が事務局を務めている教育情報化を進める団体、デジタル教科書教

材協議会というのがあるのだが、この機に社団法人化をすることになり、そこでもリテラシー教育やフィルタリングの普及策にきちんと立ち向かおうという決議が総会でなされたので、関係の皆様と連携を深めて、学校側にどう持ち込むか、自治体にどう話していくかということと一緒にできたらと思っており、集まりの皆様が中心になると思うので、声がけをさせていただいて、例えばシンポジウムを開いてメッセージを一緒に出していくといったこともやれたらいいなと思っている。

【治良オブザーバー（(一社)全国携帯電話販売代理店協会）】

先ほど店頭の話だけさせていただいて、シーンを変えてフィルタリングの利用率を高めていただくということをお願いしたが、一方で全携協の方も、実は大きな店舗の場合は、会議室を開放してスマホ教室とかいうのを独自で展開するほか、最近先ほどFMMCの報告にもあったとおり、全携協とFMMCが協定を結び、現在、全携協の会員で講師に認定された人数が今もう500名を超えていて、最近、ようやく講師派遣も具体的にかんがりの頻度でなされており、累計が50人を超えるというような形で、実は店頭だけではなく、それ以外のシーンでも我々もいろいろな形でリテラシー向上に取り組んでいるということを一言申し添える。

【宇津木構成員】

「e-ネットキャラバンPlus」というスマートフォンのフィルタリングの設定に特化した講座をつくった。回数は少ないが、実際にやったところ、やはり設定の説明でかなりの保護者や職員の理解度が進まないという壁にぶち当たった。もともとは60分間、丸々設定の話だったが、あまりにもつまらなくて難しいことから、今までずっとやってきたモラルの話の40分にして、後半20分で設定の話というようにつくった。ようやく少しずつ進んできたなどというのは、やはり説明って難しいなという中で、今日、フィルタリングの名称やマークを統一するということが、私が前回申し上げたことが、この半年間で善処させていただいて本当に感謝をしている。先ほど新モードの話があったが、学校ではSNSの問題を大変重視している。ちょうど今朝、おでんツンツン男が逮捕されたところ、あれは成人の方だが、やはりSNSは危険なものではないけれども危ないことにつながってしまうということは同じだと思う。また、私立の学校などでは学校の校則としてSNSを禁止している高校も、中学校も多くあるので、そこが少し気になった。SNSを使いたいという気持ちは分かるが、そこは課題の1つかなと思う。

あともう一つ、今日はAppleの方もいらっしやっている。前回、出席させていただいたときに、Appleというのはグローバルなデザインで、世界で統一しているので、

なかなか日本だけで対応するのは難しいということをお伺いした。その後、新しい iPhone が出て総務省の認定というマークがついて、Suica が使えるようになって日本だけの独自のシステムができたのを受けて、あれあれと思った。もちろん大きい会社なので、日本だけのためにというのはもちろん難しいことではあるのは重々承知している。私が実際に学校に行って生徒や先生と話し合う中で、Apple を使っている人は大多数で、子供たちも iPhone 大好き、iPhone 以外考えられないと言うし、親御さんもやっぱり子供が iPhone と言う。

その中で1つ、もしご検討いただけるのであれば、資料4-5の7ページを見て思ったのだが、レーティングの基準について、17+を何とか18+にしていだけないかということ。もちろん基準というのはAppleの中とか、いろいろなところからあるだろうが、このレーティングをもう少し活用できないかと思っている。なぜなら、R指定って、映画やゲームにあるが、保護者はあれを子供にはバシッと親御さんの立場から言える。親御さんが子供に言うに当たり、それを指針にしている方が結構多いところ、スマートフォンのレーティングだけは、ふんわりしている部分がある。もしここをご検討いただけるのであれば、指導する側も、学校も、保護者の方も指導しやすくなる、言いやすくなるのではないかと思うのでご検討いただきたい。

【白壁オブザーバー (Apple Japan 合同会社)】

先ほど紹介いただいたとおり、今、EMAと連携して新しいスキーム、より日本の実情に合ったようなスキームをできないかということで検討している。その中でやはり技術的にできるだけいただいた情報をもとに、このように変えられないかというコミュニケーションをしており、他方で技術的にどうしても難しいといった側面もあるので、1つ1つ検討を進めて、ぜひできることをさせていただきたい。

もう一つ、先ほど話に出たプリインストールの話に関しては、現時点では個人的な感想になるが、何をもってプリインストールかというところもあるかと思う。新モードの機能自体はiPhoneの機能制限として提供されているので、それををもってプリインストールという考え方もできるように思われる。逆に、また新たに別のものをプリインストールするとなると、スマートフォンのスペースは限られたスペースでもあり、不要であるお客様からのご指摘なども想定されることから、フィルタリングに止まらない大きな議論が必要になってきてしまうと思う。

あと、先ほどTCAからもあったが、フィルタリングだけではなかなか解決しない問題もあると思っており、弊社としても教育現場も含めて安心して使っていただけるように、で

きることはぜひ協力させていただければと思っている。

【木村オブザーバー（(一社) テレコムサービス協会）】

最初に尾花構成員から2番目にご質問いただいたMVNOは新モードに追随するのかということについてお答えしたい。ご指摘のようにフィルタリングがないのに時間制限の機能があるからといって子供向けと言っているMVNOがあるということは、私も承知しており、不十分であると認識している。新モードについては、実は私も一昨日、話を伺ったばかりで、今もTCAにいろいろ質問をしているところ、機能などを見ながらMVNOでも追随できるかどうか、これから検討していきたいと考えている。

【尾花構成員】

教育に関係して、文部科学省のネットモラルキャラバン隊等で全国に行くと必ず「情報モラルや情報リテラシー、情報の教育を学校では大体どれくらいやっているのか」という質問が保護者から出る。それに対し、生徒たちは「2週間に一度程度」と答えてくれるが、「情報技術、例えばプログラミングやエクセル、パワーポイントの使い方といった技術的な授業ではなく、情報モラルや情報リテラシーを向上する授業は？」と私から質問をしないおすと、「年に1回、外から先生が来てやってくれるレベル」という答えがほとんど。でも、自分たちにはどちらが必要かと問うと、情報リテラシーや情報モラルの方を学びたいという答えが返ってくる。

特に浅井構成員も先ほどおっしゃっていたが、時間割はあるし、担当する先生はいて、やれる時間もちゃんと確保されているにもかかわらず、子供たちのニーズに合ったものが提供できていないという現実がある。せつかくある時間の中で、例えばフィルタリングについていい形で学ぶことができるようになれば、安全の確保を機器や仕組みに任せて利用する賢い子供も多く出てくると思うし、学校では設定や体験学習ができなくても、「家に帰って使ってみてもう1回考えよう！」と促せば、自分の機器や保護者の機器などで試してみることもでき、親子で話し合うこともできると思う。こう考えると、情報技術の授業としてフィルタリングをやってもいいはずなのに、そういったところにはどうしても学校教育が踏み込めないという現状があるので、そこを改善していくことも、フィルタリング普及に関してプラスに働くのではないかと思う。

あと、先ほど浅井構成員からあった低年齢への課題という点については、白戸さんからの説明にあったように、現在、安心協でつくっている低年齢の保護者向けの資料がある。おっしゃるとおり乳児の利用に関しては、健康面からも機能発達の面からもいろいろと問題視されているところがあるが、専門的な知識が不可欠な部分でもあり、今そこにフォー

カスするよりも、幼児とデジタル機器について考えてもらうための保護者向け資料を作成するほうが急ぎ提供できる。なおかつ、自分たちの現状を正しく意識してもらうため、裏表紙の一番目立つところに大人向けのチェックシートを付加する形で検討している。チェックシートについては、まだ最終的な文言が決まっているわけではないが、例えば「食事の支度中、スマホやタブレットで遊ばせることが習慣化していませんか？」のように、お母さんやお父さんが自身のこととして「大丈夫✓」をしてもらう。ただし、「遊ばせていませんか？」だと責められているように感じる人もいるため、「遊ばせることを習慣化していませんか？」のように言葉選びは慎重に行うことで、大丈夫にチェックができる人は今のままでよく、チェックができない人は、「できることから少しずつやっていきませんか」という呼びかけをすることができる。頭ごなしに駄目だと言うと、保護者のストレスをより高めてしまい、イライラを子供にぶつけてしまったり、手を上げてしまったり、育児放棄になったりということもないとは言い切れない。ダイレクトに非難するのではなく、こういうふうにやったらいいですよ、今ちょっと頑張れば後が楽ですよ、という気づきを生むようなチェックシートを検討しているので、またご意見等あれば、委員や関係者の皆様からも話を伺わせていただければと思う。

【森構成員】

今の尾花構成員の話、全くごもつともだなどと思って伺っていたが、まずはICTリテラシー教育とは必ずしも直結しないレベルで、学校で義務化や推奨を進めていただけなのではないか。行く行くは尾花構成員の言われるように、そういうことを理解して納得して使うということがいいのかもしれないが、ICTリテラシー教育となると、その中で優先順位があると思う。その限られたリソースを食い合ってフィルタリングまで入らないということになるかもしれないが、教育する話と、その学校で義務化する、推奨する話とは少々違うと思っているので、まずはそちらをやっていただいて、店舗へ来て、その店舗で何か学校のほうから標準モード、中学生とか言われて何のことか分からないが、それでお願いしますということでもまずはいいかと思う。それで、行く行くは、その教育で知っていただく、納得していただくということかと思うが、まずはICTリテラシー教育のリソースの配分の議論に巻き込まれないところでお進めいただけるのではないかと思います。

【上沼構成員】

最後に、保護者の説明の仕方として検討いただきたいのだが、プリインストールと言うかどうかはともかく、せつかく新モードをベースとして検討いただいたのであれば、最初に、「全ての人が簡単に使えるように、こういう設定を用意しました。これは既に設定済み

です。ただし、この場合だとこういうリスクがあるので、さらに加えてこういうフィルタリングがありますが、お使いになりませんか。」という導入の仕方をしていただければ、今までと状況は変わらないので、従来であれば既存フィルタリングを利用していた利用者が新モードに流れるとの懸念がなくなると思う。そういう説明の仕方をぜひご検討いただきたい。「原則、青少年が携帯電話を使うときにはこのフィルタリングを使うことになっているので、これでどうですか。その上でさらなるフィルタリングもあります。」という説明をした上で、「使ってみて駄目なら外すことはできます。」という話であれば、保護者に対しては一番説明がしやすいのかと思うので、ぜひご検討いただきたい。

【中村主査】

今日いただいた様々なご指摘を踏まえて、これを実施する皆様においては、実施に向けた更なる検討と準備に取り組んでいただきたい。このタスクフォースは、非常に大きな成果を上げつつあると思う。対策としてこれが 100%正解ということはないと思うが、一歩でも二歩でも前に進み、新しいステージにみんなで向かうということが大事だと思う。そして、今後の検討の進捗状況については、必要に応じてこのタスクフォースでもフォローアップを行っていききたい。

(以上)